

梶山歴史文化館ニュース

Vol. 2 2

2019.12.18

◆ ◆ ◆ 梶山歴史文化館開館10周年を迎えて ◆ ◆ ◆

歴史文化館長 梶山美恵子

もう10年、まだ10年です。開設年（平成21（2009）年）の「歴史文化館ニュース 創刊号」に私は次のように記しました。「・・・今回のオープンはいくまでスタートにすぎません。・・・中略・・・運営上の課題がいろいろと見えてきました。今それらについて順次取り組みを始めていますが、学園の関係者の皆さんのご協力なくしては解決できない課題が多くあります。「歴史文化館」が学園をより深く知る場として、また学園をより広くアピールする場として、その役割を果たしていくことができるよう、改めて皆さんのご協力をお願いする次第です。」

これまで10年間多くの方々の協力により、当館はここまで歩んで来ることができました。心より感謝申し上げます。これからも山積している課題に取り組んでまいりますので、引き続きご協力の程をよろしくお願いいたします。

なお、当館では、開館10周年記念として、これまでの研究成果を踏まえ、3月末に『裁縫雛形コレクション』を発刊し、10月末から企画展「裁縫雛形コレクション展～梶山の小さな衣服たち～」を開催しています。明治から昭和初期の授業で、当時の生徒たちが正確な縮尺で作成した衣服です。梶山女学園の原点であり、また、民俗学的にも価値のある裁縫雛形の数々をこの機会にぜひご覧ください。



梶山女学園 歴史文化館 開館10周年記念 裁縫雛形コレクション展 ～梶山の小さな衣服たち～



企画展 「裁縫雛形コレクション～梶山の小さな衣服たち～」

【会場】 梶山女学園歴史文化館（大学中央図書館4F）
【期間】 2019年10月23日（水）～2020年7月31日（金）
【時間】 毎週水曜、金曜 10：00～17：00

会場：梶山女学園大学 歴史文化館（図書館4F）
期間：2019年10月23日（水）～2020年7月31日（金）
時間：毎週水曜、金曜 10：00～17：00

◆ 裁縫雛形展を見て～裁縫雛形から梶山の歴史を感じる～ ◆

文化情報学部 メディア情報学科4年 渡邊恵梨子

私は歴史文化館でアルバイトをしています。裁縫雛形コレクション展「梶山の小さな衣服たち」を開催するにあたり、微力ながらお手伝いをさせていただきました。歴史文化館が3月に発行した「裁縫雛形コレクション」をもとに裁縫雛形を並べながら、作品の忠実さや面白みを感じることができました。

まず目を引いたのは、五衣（イツツギヌ、写真1）です。天皇陛下即位の礼では女性皇族の一部が五衣を着ておられました。5枚の布が重なっていると書き「五衣」。平安時代の人たちは布が重なる色合いを楽しんだといひます。歴史文化館の作品でも布の重なりを見ることができ、当時の学生が伝統的な儀式で使われる衣服も学んでいたことを知りました。

本裁女物被布（ホンダチオンナモノヒフ、写真2）は遊び心がある衿元の飾りに心を動かされました。衿元にある釈迦結びは、飾りと留め具の二つの用途があります。釈迦結びを学ぶ授業があるほど、釈迦結びは繊細なものでした。この作品は今のコートの役割を担っていたそうです。

さらに私のお気に入りの作品は、本裁大紋腰女袴（ホンダチダイモンゴシオンナバカマ、写真3）です。卒業式に使われる袴と同じように色鮮やかです。男女で色、柄が違い、着ている人を想像してしまいます。袴は、動きやすいように脇腹の部分が開いていてとても動きやすく、広く生活用として着られていたことがよく分かりました。

和服だけでなく、洋服も展示されています。本裁女物海水浴着（ホンダチオンナモノカイスイヨクギ、写真4）はピンク色、白色を基調としていて、スカートにはギャザーもついていました。私はこの服をセーラー服だと勘違いしていましたが、キャプションを見て海水浴着だと分かりました。当時の女性は肌を露出することがあまりよしとはされていなかったようです。

最後に紹介したい作品は生活用品です。長暖簾（ナガノレン、写真5）は、草花模様で赤いリボンがおしゃれです。柄が鮮やかであったので、お店の入り口にかけられた様子を想像して作られたのかもしれない。

蚊帳（カヤ、写真6）は生まれて初めて目にしました。蚊に刺されないように寝室に吊るすものです。蚊帳の上の部分には金具がついていて、部屋の隅から吊るせるようになっています。部屋全体を覆うことができるので、実物はとても大きいものだろうと思いました。

このように裁縫雛形は奥深く、小さなワクワクを感じることができます。展示には、当時の成績表も飾られています。成績表には服の名前がずらっと並んでいました。多くの服を作ることができる環境が整っていて、技術者を世の中に送り出していた学校であったことがうかがえます。梶山女学園の創設者である梶山正弑先生は大きな情熱を持って、女性が社会で活躍できるようたくさんの知恵を身に付けられる教育をされたのだと思いました。500以上の作品が残されているそうですが、展示されている裁縫雛形を見るだけでも梶山の歴史を感じることができました。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

◆ 「文化のみち二葉館」 で出会った「梶山」 ふたつ ◆

歴史文化館長 梶山美恵子



去る11月3日、東区撞木町の「文化のみち二葉館」で開催中の「名古屋・モダニズム詩展」を訪れた。大正から昭和初期に伝統主義に対して新しさを求めた芸術運動が興り、名古屋で創刊された詩誌が先駆的であると評価されているとのこと。展示室のパネル「名古屋・モダニズム詩年表」の次のような記述が目に入った。

大正10（1921）年

1月 感動詩社主催の講演会が**梶山高等女学校**で開催される。講演者は…（中略）……。『曼殊沙華』の同人らにより感動詩社詩話会を発足。
8月「若きいのち」創刊。夜詩社主催の講演会が**梶山高等女学校**で開催される。講演者は…（中略）……。



この記述の「梶山高等女学校」とは、梶山女学園の発祥地・富士塚町（現在の東区泉1丁目付近）にあった梶山の最初の高等女学校である。先の戦争によって、その地にあった寄宿舎や創設者の自宅などとともに全焼してしまった（ちなみに千種区山添町にあった2番目の高等女学校は戦火から免れ、現在の中高の前身となっている）。

当時この梶山高等女学校には立派な講堂があった。大正11年には芥川龍之介・菊池寛・小島政二郎らの文芸講演会が一般向けに開催されたという記述が学園史に残っていて、当時梶山の講堂が名古屋の文化の発展に役立っていたようであるが、上記のモダニズム詩の講演会開催の記録は学園史にはない。



この展示を担当した学芸員の椎橋愛さんは、「東海詩集第一輯大正15年版」（東海詩人協会編）の中にその記述があったと説明してくださった。大正時代の「梶山高等女学校」との思わぬ出会いであった。

同日、二葉館の大広間では講演「前衛詩人たちの活動」（木下信二氏）と詩の朗読（いのこ福代氏）が開催された。いのこ福代さんは「劇団うりんこ」の創立メンバーで現在も幅広い分野で活躍中の梶山高校の卒業生である。筆者は彼女が在学中に生徒会長をしていた時の生徒会顧問だったという関係で、これまで時折舞台上の彼女を観客として応援していたが、今回は久しぶりの出会いであった。

11月3日、文化の日は、「文化のみち二葉館」で「梶山」の二つの出会いを得た日となった。（協力「文化のみち二葉館」）



写真提供：
文化のみち二葉館

◆ テレビ番組取材と放送がありました ◆

歴史文化館が関わったテレビ番組が、7月と10月に二回放送され、さらに来年1月にもう一回放送されます。

①NHK「紀の国スペシャル 前畑がんばれ！ 日本人初の女性金メダル」

7月26日（金）19：30 NHK和歌山放送局制作により和歌山県内で放送後に全国放送として、8月12日（月）5：10、8月29日（木）4：02に放送

NHK大河ドラマ「いだてん」で取り上げられた前畑秀子は、和歌山県橋本市の出身であることから、和歌山地域に大河ドラマを周知する応援番組として制作されました。6月20日（木）に山添と星が丘で番組撮影がありました。歴史文化館では、前畑秀子関係写真の提供や前畑秀子自筆の日誌の撮影に協力しました。



②NHKファミリーヒストリー「瀬古利彦（元マラソン選手）」

10月28日（月）19：30 NHK津放送局制作により全国で放送

瀬古利彦氏のお母さんが、戦前の椋山第二高等女学校を卒業していることから、NHKの製作担当者より打診があり、椋山女学園出身であることが判明しました。6月27日（木）に山添と星が丘で撮影があり、山添ではご遺族の了承と理事長の許可を受けて、当時の学籍簿を撮影しました。歴史文化館では、卒業アルバムにある写真の撮影に協力しました。

③NHK歴史秘話ヒストリア「前畑ガンバレ！日本初の女性金メダリスト誕生秘話」



1月15日（水）22：30 NHK和歌山放送局制作により全国で放送予定

これもNHK大河ドラマ「いだてん」で取り上げられたことや来年のオリンピック開催に向けた話題として放送されます。10月1日（火）と11月1日（金）に山添と星が丘で撮影がありました。歴史文化館では、前畑秀子関係写真の提供、前畑秀子自筆の日誌及びサイン帳の撮影に協力しました。

【寄贈品紹介】

○卒業アルバム（大正12年）（本田美保子氏寄贈）○リトグラフ「一枝（紅梅の図）」／小倉遊亀（旧椋山女学校教員）／テレフォンカード（小倉遊亀画）（水谷静子氏寄贈）○絵はがき（母校運動会記念絵葉書／昭和2年、汐干狩記念絵葉書／大正4年）（森仁史氏寄贈）○写真（椋山女子専門学校附属高等女学校テニス部）（内田昌子氏寄贈）○卒業アルバム（昭和39年中学校、昭和42年高等学校）／ソノシート（昭和41年度高等学校卒業記念）／卒業生を送る会次第（昭和41年度高等学校卒業）／鉛筆（小学校記念品）

（松下万里子氏寄贈）○記念ケース（昭和10年前畑秀子世界記録樹立記念）（岡田保氏寄贈）○レコード（昭和11年ベルリンオリンピック水泳競技実況放送／前畑秀子200m平泳）（今井一兵氏寄贈）



【編集後記】

企画展【前畑秀子展】では、2020年に東京オリンピックがあるため、多くの方にご来館いただきました。ありがとうございました。

現在、企画展【裁縫雛形コレクション～椋山の小さな衣服たち～】を開催中です。足を運んでいただければ幸いです。

椋山歴史文化館ニュース 第22号

発行日 2019年（令和元年）12月18日

編集者・発行 椋山女学園歴史文化館

名古屋千種区星が丘元町17番3号

TEL 052（781）1186（代）

052（781）4590（直）

編集担当者 椋山美恵子 村瀬輝恭 阿部亮子 安井有紀